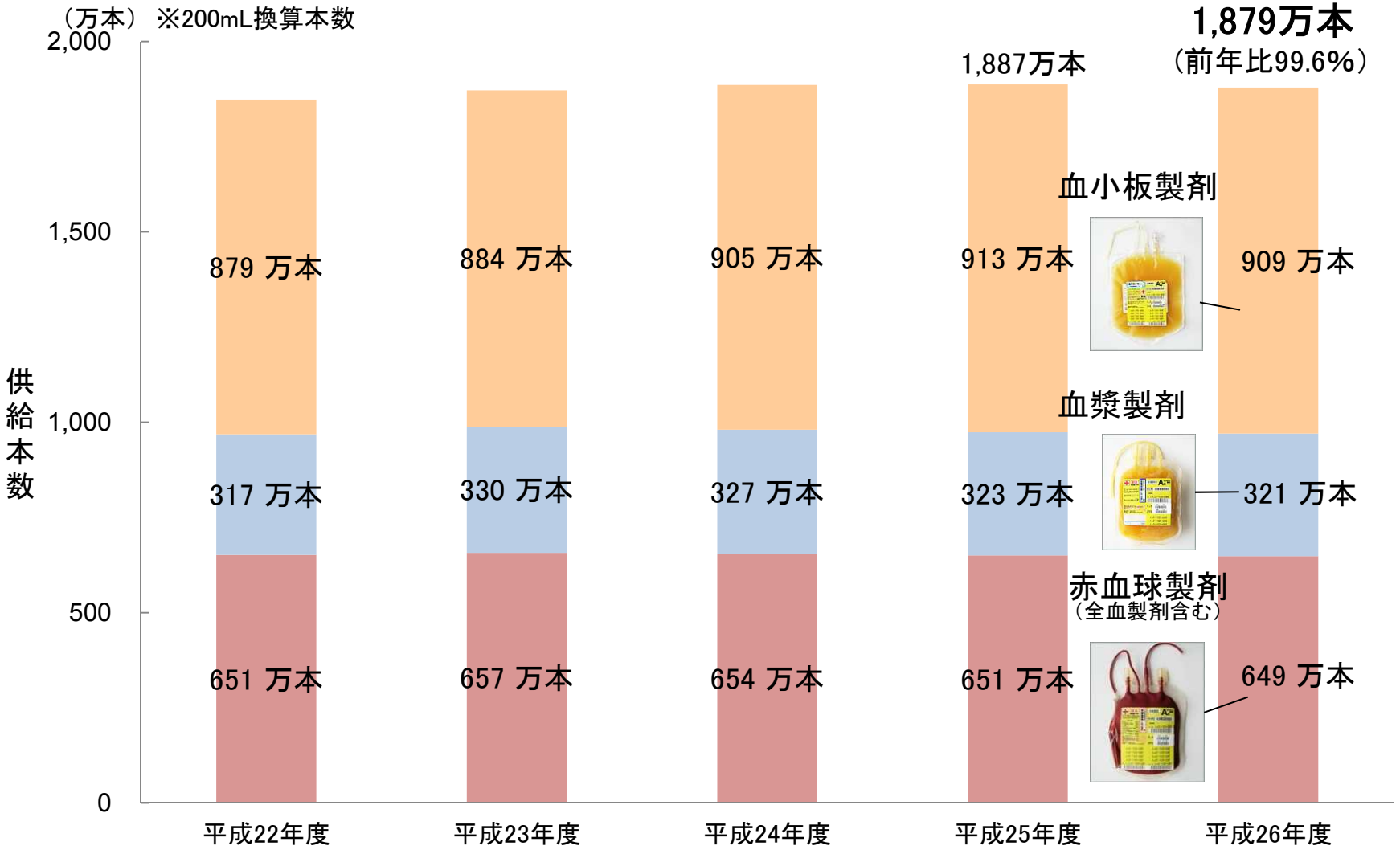
資料　４－２

平成26年度
血液事業への取り組みについて

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

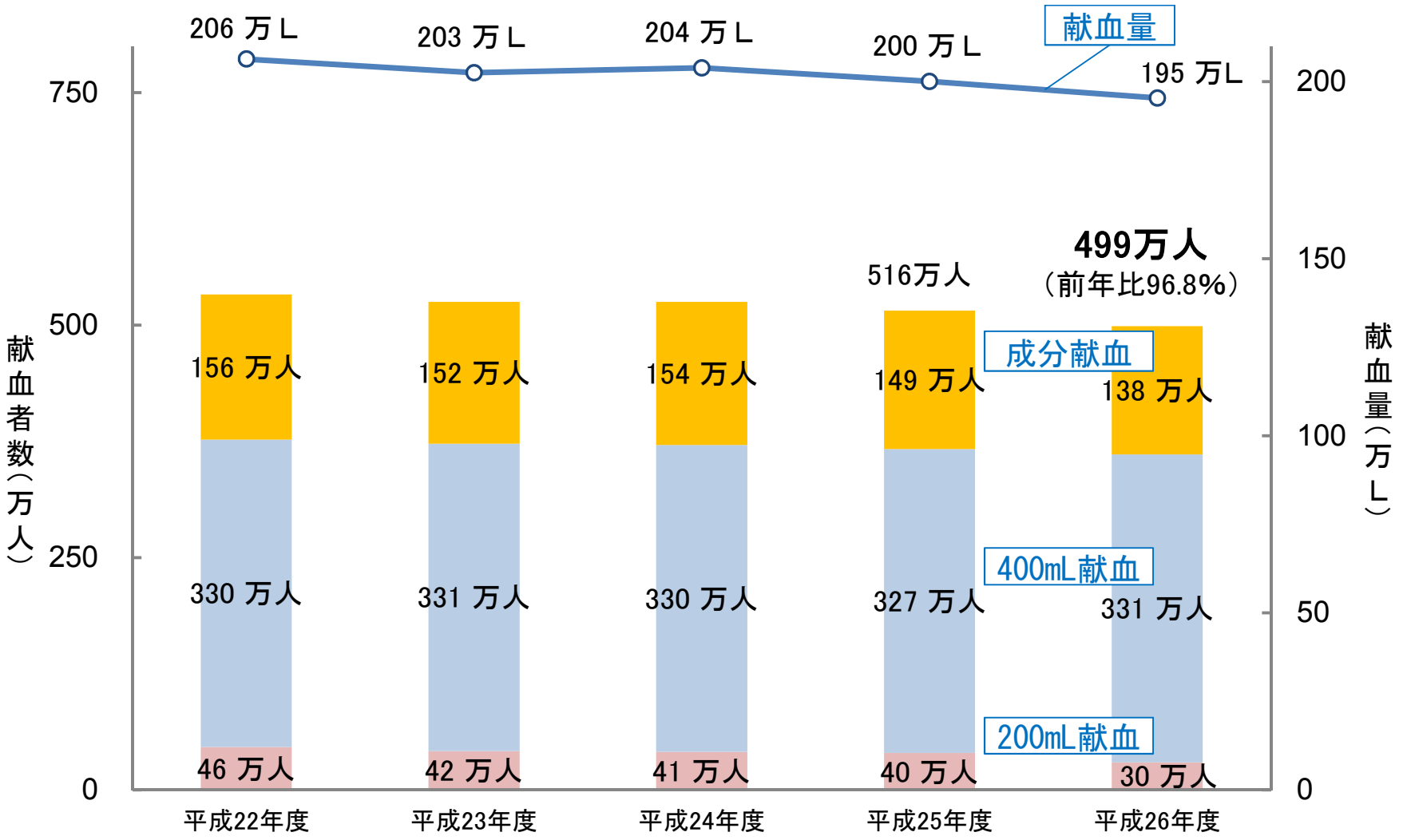
平成27年10月19日（月）
血液事業部会運営委員会

1. 輸血用血液供給量の推移



全体的に概ね横ばいで推移しています。

2. 献血者数の推移



供給状況にあわせ、効率的かつ計画的に献血協力をいただいています。

3. 平成26年度の事業計画における重点事項

(1)将来にわたる献血者の確保

・若年層(10～30代)協力者の拡大

「LOVE in Actionプロジェクト」を基軸とした雑誌・ラジオ放送・SNS等を含む様々な媒体による広報展開

学校での献血セミナーの開催

学生ボランティア組織等との協力・連携

小学生から対象とした血液センター体験学習

「献血推進2014」項目	目標値	実績値
10代の献血率	6.4%	5.7%
20代の献血率	8.4%	6.7%

・献血環境の整備

137カ所の献血ルームと286台の献血バスで協力受付

平成26年度は、11カ所の献血ルームを移転または改装

（2）事業運営体制の充実

・新たな基幹システムの導入（平成26年５月～）

広域事業運営体制への適合、GMPの準拠等、事業の基盤強化を図りました。

タッチパネルによる
問診項目の回答（電子カルテの導入）

（3）輸血用血液製剤の安全性の向上

・新たな核酸増幅検査（NAT）の導入（平成26年８月）

個別検査へ切り替え

20人分 まとめて検査 → 1人 ずつ検査

検査拠点の増設

4カ所 → 8カ所

【報告】 NAT結果陽性が多発した不具合事例への対応

（1）不具合の概要

平成27年1月31日、中四国ブロック血液センターの核酸増幅検査（NAT）において、NAT装置（PANTHER）メーカーのエンジニアの作業ミスに由来するNAT陽性多発事例が発生したため、同センターのPANTHER（全5台）を停止した。

（2）対応状況

代替施設におけるNAT実施

九州ブロック血液センター及び近畿ブロック血液センターに検体を送付してNATを実施（血小板検体については、中四国ブロック血液センターに暫定的に設置した2台のPANTHERで、3月2日よりNATを実施）

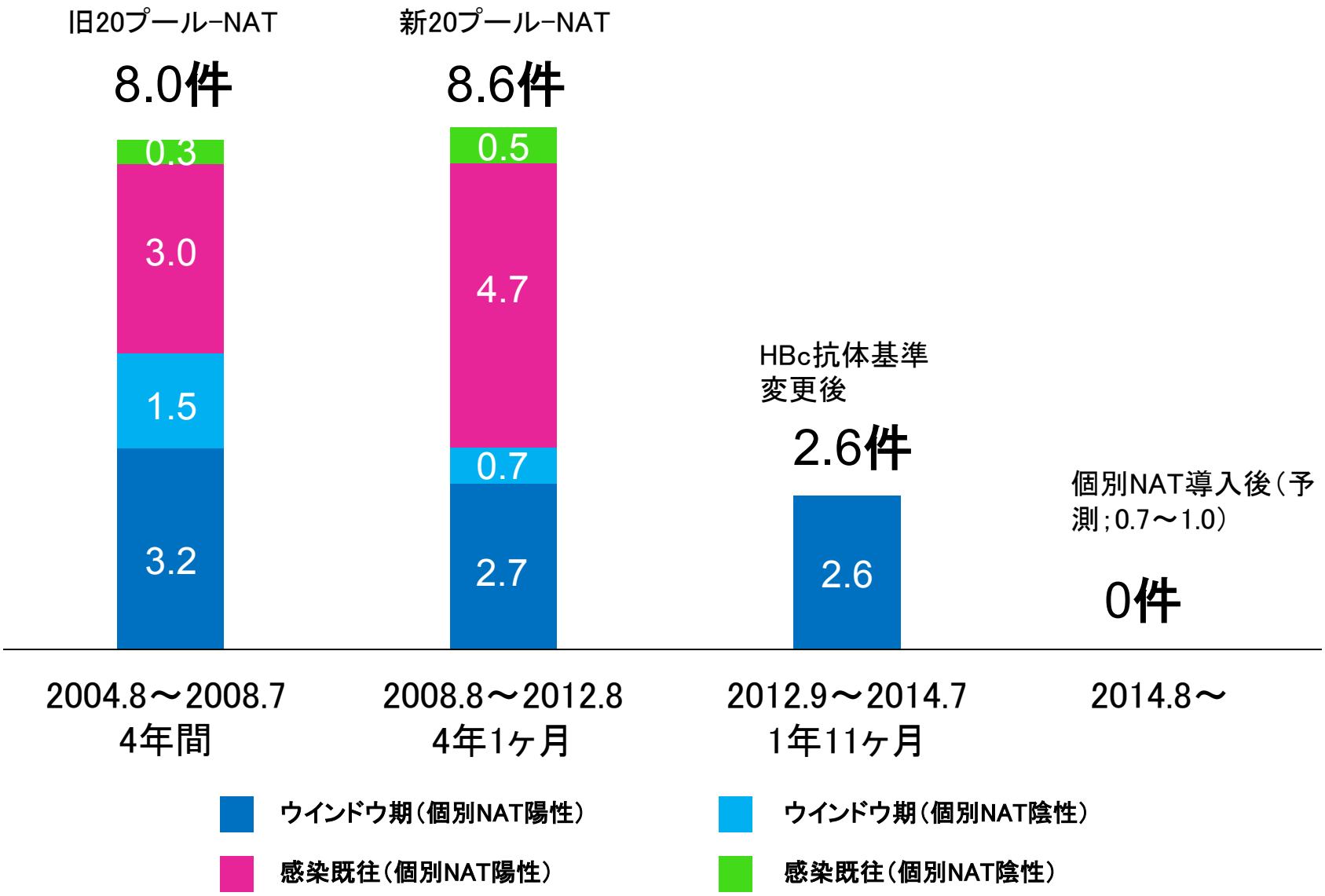
復旧に向けた準備

新たなPANTHER及び付属装置の確保、NATエリアの工事等

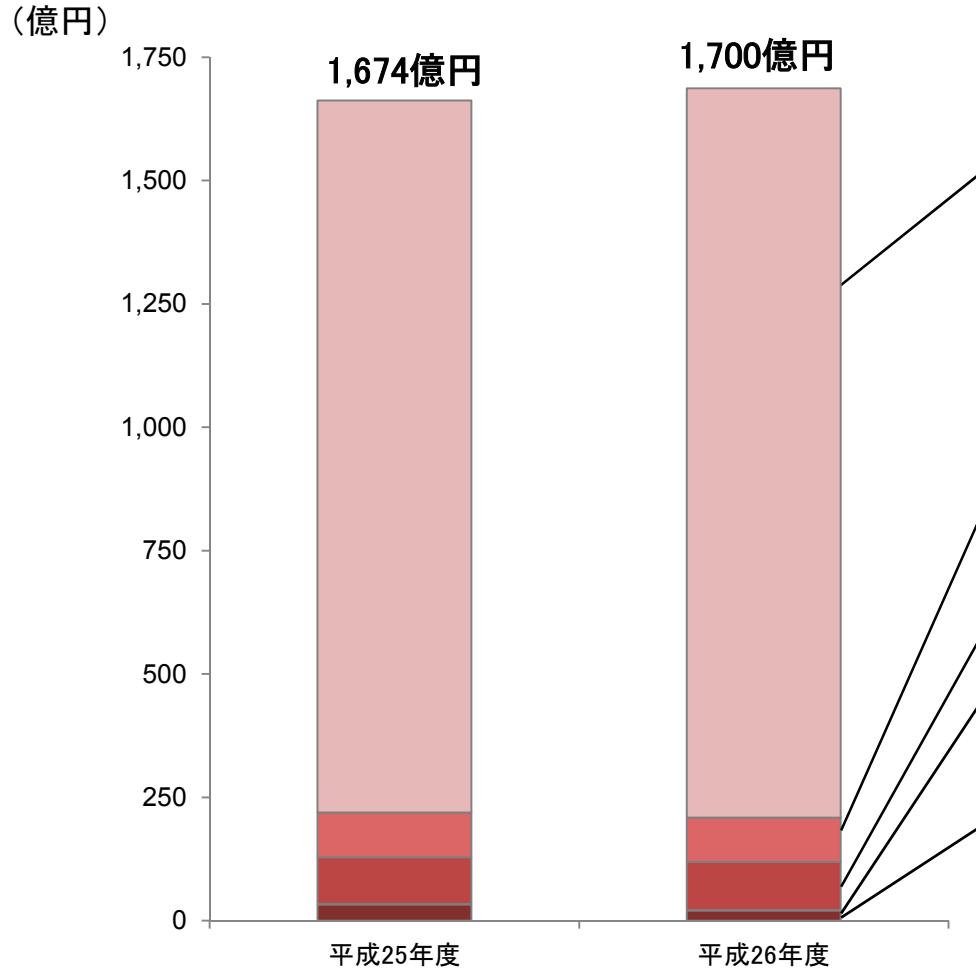
（3）NATの全面稼働

当初は10月1日の稼働を予定して準備を進めていたが、工事の開始時期が早まり、さらに装置の設置及びバリデーション等が順調に行われたため、9月17日より全面稼働し、現在は安定的にNATが行われている。

【参考】 年間あたりの輸血後HBV感染症例数



4. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし



輸血用血液製剤供給収益
［1,442億円　→　1,477億円］　2.4%

分画製剤供給収益
［　90億円　→　　89億円］　△1.2%

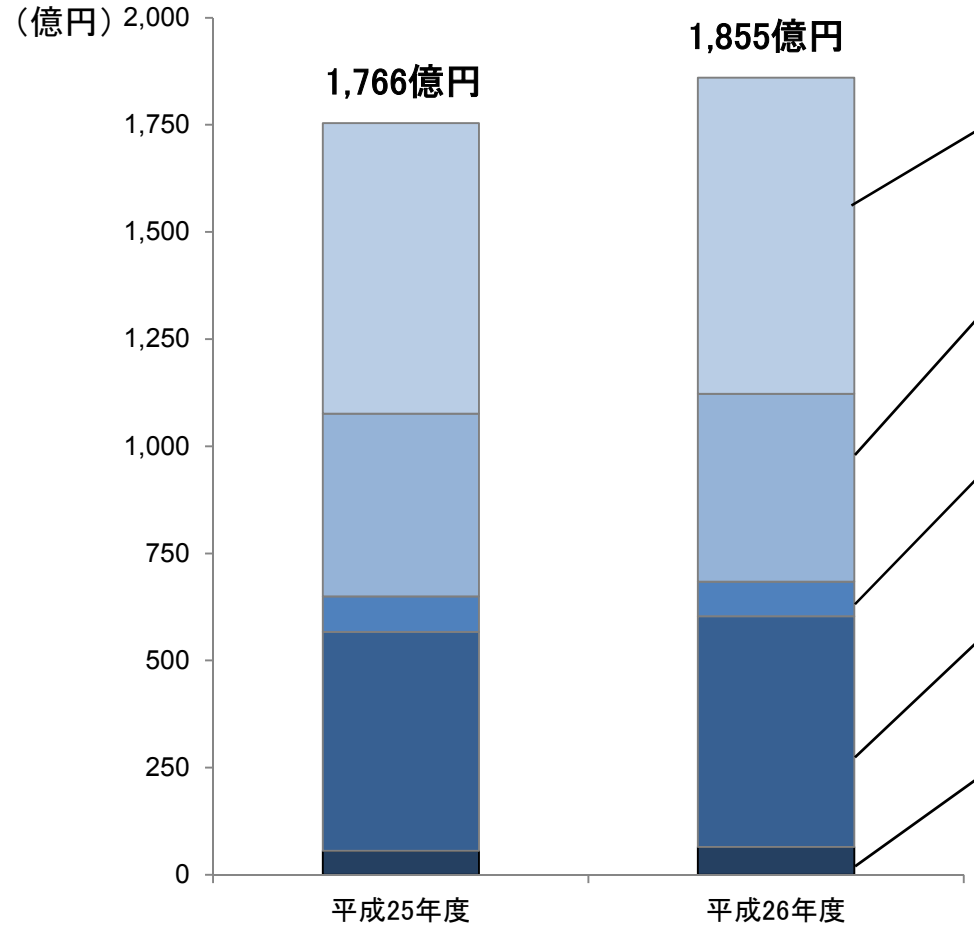
原料血漿供給収益
［　94億円　→　　98億円］　4.2%

その他事業収益
［　1.82億円　→　1.41億円］　△22.6%

事業外収益
［　　32億円　→　18億円］　△43.8%
関連事業収益
［　12.6億円　→　15.4億円］　22.2%
特別利益
［　0.017億円　→　0.077億円］　352.9%

	平成25年度		平成26年度	増減率
収益的収入合計	1,674億円	→	1,700億円	1.5%

5. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし



人件費
［ 677億円 → 737億円］ 8.8%
※平成26年度には退職給付債務割引率変更の影響額50億円が含まれています。

材料費
［ 426億円 → 438億円］ 2.8%

その他供給原価
［ 83億円 → 80億円］ △3.7%

経 費
［ 510億円 → 538億円］ 5.4%

事業外費用
［ 42億円 → 36億円］ △14.3%
関連事業費用
［ 10億円 → 15億円］ 50.0%
特別損失
［ 12億円 → 11億円］ △8.4%

	平成25年度		平成26年度	増減率
収益的支出合計	1,766億円	→	1,855億円	5.0%
収 支 差 引 額	△91億円	→	△155億円	

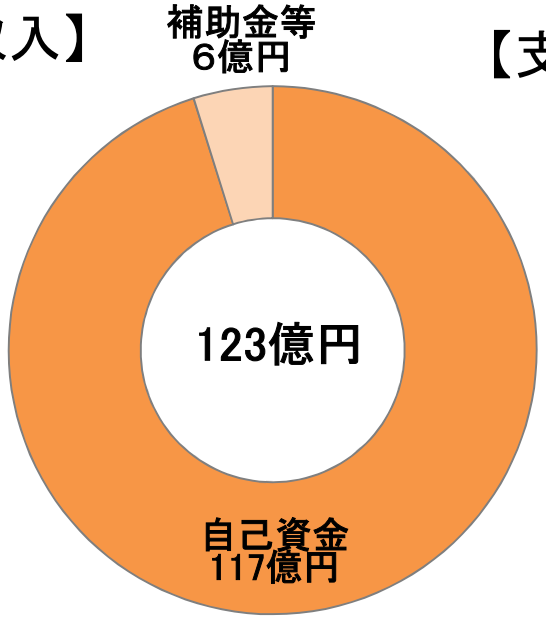
【補足】収支差引額について

平成26年度決算の収支差引額は△155億円であったが、対予算における想定していなかった支出増加要因があった。

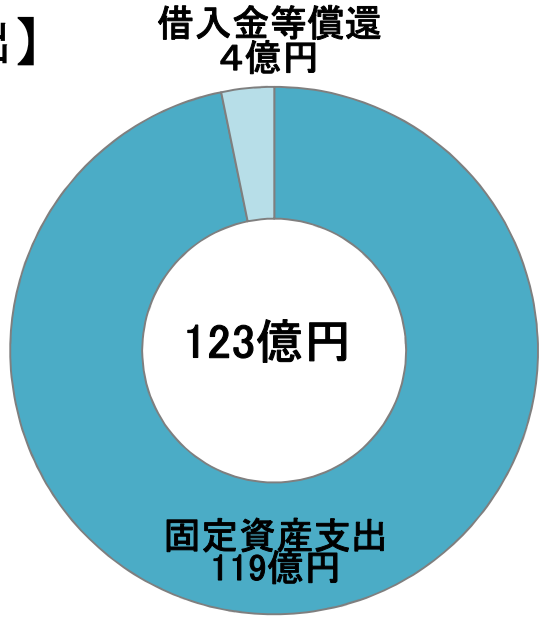
①退職給付債務割引率0.8%へ変更による人件費増加	50億円
②システム本稼働による時間外手当	４億円
③賞与支給率0.15カ月増加	４億円
④給与改定による差額支給	２億円
⑤個別NAT導入時の危機管理費用	10億円
⑥システム並行稼働に伴う保守費用	７億円
	合計77億円

7. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし

【収入】



【支出】



資本的支出の内訳

内　容	金　額
土地の購入	15億円
血液センター、献血ルームの施設整備等	40億円
成分採血装置、血液保管庫などの整備	41億円
移動採血車、献血運搬車などの車両整備等	8億円
血液事業情報システム等	14億円
借入金等の償還	4億円

茨城県赤十字血液センター（新築）

横浜駅西口献血ルーム（改装）

9. 平成27年度の主な経営改善項目

①	**スケールメリット活用による費用削減**	
	実施内容	本社一括契約により、採血バッグ、試薬等の仕入単価の価格交渉を行う。
	削減額（第1四半期）	昨年度価格で購入した場合と比較し約1.3億円の削減。
②	**血小板の分割推進**	
	実施内容	20単位以上採血可能なドナーから10単位2本を製造する。 献血者が減少した状況化においても安定供給を図ることができる。
	削減額（第1四半期）	約13,300本製造により約0.9億円の削減。
③	**血液事業本部予算の削減**	
	実施内容	血液事業本部の平成27年度予算策定に際して、平成26年度予算から大幅に削減する。
	削減額（第1四半期）	公益財団法人血液製剤調査機構への拠出金0.4億円及びシステム機器費用等を合計約10.5億円削減。
④	**需要に見合った400mL献血率の向上**	
	実施内容	26年度実績91.8%→92.8%へ1%向上の計画。（全国の供給の需要は95%）
	削減額（第1四半期）	第1四半期実績(93.9%)は、計画に対し材料費約1.8億円の削減。 前年度同期に対し、材料費約1.7億円の削減。.